

第46回原爆殉難者慰霊祭

平和への祈りコンサート

～グレゴリオ聖歌とオラショによる祈り～

■日時：2018年8月8日（水）18:30～18:55

■場所：長崎原爆落下中心地公園 ■入場無料

西洋音楽の発祥といわれる「グレゴリオ聖歌」は、無伴奏、単旋律で歌われるカトリック教会の聖歌です。この聖歌から西洋音楽はさまざまな形で発展しました。一方、日本では、16世紀半ばにキリスト教が伝来・繁栄し、セミナリヨ（小神学校）で西洋音楽が学ばれ、教会でこの聖歌が歌われました。しかし、豊臣秀吉、徳川家康による禁教令により、キリシタンは潜伏を余儀なくされ、密かに聖歌や祈りを口伝えしていく中で、いつしかメロディーは失われ、「オラショ」という祈りの言葉になっていったのです。オラショの起源は、グレゴリオ聖歌だったのです。

グレゴリオ聖歌●



松本 佳代子

（声楽家/La gioia di cantare 代表）

シベルタニョリオ氏に師事。

2008年（公財）三菱UFJ信託芸術文化財団より「佐川吉男音楽賞」受賞オペラ「蝶々夫人」でタイトルロールを歌い、音楽誌「音楽の友」にて『可憐な蝶々さん』と紹介される。

2013年主役：中沢夏子役を演じた「世界初演オペラ『いのち』」は三菱UFJ信託音楽賞を受賞。2015年新国立劇場での同オペラの再演でも主役をつとめ、高い評価を得る。その公演は「JASRAC音楽文化賞」に輝く。一昨年は東京・福岡・長崎でリサイタル開催。長崎県オペラ協会理事。

●パーテル・ノステル（主の祈り）

天にまします（主の祈り）●

●アヴェ・マリア

アベーマリア●

天使祝詞●

●アヴェ・マリアのコラボ●

●サルヴェ・レジーナ

サルベージナ●

●フォーレのピエ・イエズ ほか

●オラショ



村上 茂則

（下黒崎かくれキリシタン帳方）

長崎市下黒崎町で、現在でも潜伏キリシタンの信仰を守る7代目の帳方（指導者）。父・茂は熱心な信仰者で勉強家。カトリックの教義を学び、オラショを声に出して祈り始め、帰天する前にカトリックの洗礼を受けた。茂則氏は父が残した「旧キリシタン書」を頼りに帳方を引き継いでいる。

遠藤周作は小説「沈黙」を書くために、4代目帳方・村上近七の所に何度も酒を持参して取材に訪れたという。

昨年、マーチン・スコセッシ監督が映画「沈黙—サイレンス」のPRで来日した際に、茂則氏と対談した。



19:00～原爆殉難者慰霊祭（平和への祈り）